

# 令和6年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 高須 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、数学）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、数学）

教科に関する調査（国語、数学）	
①	身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問調査

生徒質問調査	
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	

### 3. 教科に関する調査結果の概要

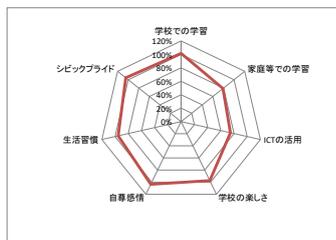
- (1) 全国・本市の学力調査（国語、数学）の結果

本年度の結果	国語		数学	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	57	7.8	49
全国	8.7	58	8.4	53

- (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「我が国の言語文化に関する事項」は、全国平均正答率を上回っている。 「言葉の特徴や使い方にに関する事項」は、全国平均正答率を下回っている。	全国平均正答率との比較
	よくてきた問題	物語の下書きについて文中の語句の位置を直した意図を説明したものとして適切なものを選択する問題	下回っている
	努力が必要な問題	本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約する問題	
数学	全体的な傾向や特徴など	「記述式」の問題は、全国平均正答率を上回っている。「選択式」と「短答式」の問題は、全国平均正答率を下回っている。	全国平均正答率との比較
	よくてきた問題	グラフから、18Lの灯油を使い切るような「強」と「弱」のストローの設定の組み合わせとその使用時間を書く問題	下回っている
	努力が必要な問題	nを整数とすると、連続する二つの偶数を、それぞれnを用いた式で表す問題	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



**質問調査の結果分析**

・「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」、「人が困っているときは、進んで助けていますか」、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」、「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」との問いに対して90%以上の生徒が肯定的に回答している。

・「ICTの活用」について、課題がある。授業の中で、効果的な活用を学校全体で考えていく必要がある。

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- ① 教科に関する取組

・ ICTを活用した効果的な活用について、学校全体で研究を進めていく。  
・ 自分の考えをグループの中で交流し、説明していく活動を計画的に組み込んでいく。

- ② 家庭生活習慣等に関する取組

・ 授業で学習した内容の確実な定着を図る内容や活用する課題など、家庭学習の課題について、検討していく。  
・ 家庭学習で取り組んだ課題の定着度を視覚化できるものを研究し、実践する。